

母と子の公民館活動

国見町教育委員会

一、はじめに

本町が、在学青少年に対する社会教育活動の一として、読書活動を始めたのは昭和四十七年からである。

この年、県立図書館から親子読書活動モデル地区に指定され、最初は家庭文庫の形式をとり、町の中央にある内池宅に文庫を開設した。翌年にはPTA活動形式として、森江野小学校に文庫を設置した。これらの文庫は、大きな成果をあげ活動を続いている。

更に昭和五十一年度から国庫補助を受け、母と子の公民館活動を実施するにいたった。今回は、母と子の公民館活動について述べてみたい。

二、活動のねらい

この活動は、子供の情操を豊かにし心身の健全な成長を図り、母と子の連帯を強めるため、読書活動とグループ活動を促進する事業を行うものである。

三、活動方針

この活動を実施するに当たり、次の方針をたてた。

- (1) 対象者は、小学校三年以下の全児童と幼稚園児並びにその母とする。
- (2) グループは、全小学校（町立、組合立）区内に、一グループずつ編制する。
- (3) 活動の場所は、下校途中活動に参加できるようにし、学校の近くにある集会所や寺院を利用する。
- (4) 活動内容は、図書の貸し出しのほかグループ活動として、図書に関連した紙しばい、スライド、指人形劇、



母と子の読書活動

その他の創作活動を二十時間以上行う。

(5) 指導は、指導員を中心として、公民館職員、補佐メンバーが、各グループを月二回巡回して行う。

(6) 藤田小学校区は、石母田地区を除き、家庭文庫による活動とする。

(7) 学校と家庭との連携を密にする。司書の資格を有する指導員一名と、将来、地区の読書活動のリーダーとして養成する意味も含めて、比較的若い母親から、補佐メンバー五名を委嘱し次の準備に取りかかったのは六月であった。

(8) 図書の選定については、県立図書館の指導を受けるとともに、数多く

の資料・リストを収集し、それを比較検討して、シリーズものを重点的にしかも整理し易く、欠本がすぐわかるように、バックナンバーをそろえて発注した。

(9) 図書は、複数のグループで貸し出しきれるように、同一図書を二冊ずつ購入し、それを二組に分け、ラベルで色別した。したがって分類はないが、将来のために基本カードを一枚ずつ作成した。

(10) 図書の整理に当たっては、補佐メンバーが早く本になじむよう、同時に貸し出しはブックカードを用いる

が記録や統計をとるため、貸し出し簿を別に作成した。

(11) 紙しばい、スライド等の教具、教材は手持ちのものを使用しながら計画的に購入することとした。また指

人形は、母親の参加を求め、手作りにすることとした。

(12) P.R.については、幼稚園、小学校

をとおして対象者全員にチラシを配布するとともに、授業参観日、PTA集会等において参加を奨励した。

五、活動状況

活動を開始したのは九月からである。

計画と準備に時間をかけたので、ス

タートは好調であった。

(1) 園児、児童の参加者数（表1）は対象者の七一%であった。大枝グループは組合立小学校であるため、本町から通学する児童だけを対象とし